

## リハビリテーションによる健康効用値・ADLの変化とその関係について The relation between utility change and ADL change by taking rehabilitation

○泉 良太 (OT)<sup>1)</sup>, 佐野哲也 (OT)<sup>2)</sup>, 山田敏之 (OT)<sup>3)</sup>, 齋藤和夫 (OT)<sup>4)</sup>, 能登真一 (OT)<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>新潟医療福祉大学医療技術学部作業療法学科, <sup>2)</sup>浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション部, <sup>3)</sup>協立十全病院リハビリテーション科, <sup>4)</sup>刈野辺総合病院リハビリテーション室

Key words: (健康関連QOL), (健康効用値), リハビリテーション

【はじめに】現在、健康関連QOL (HRQL) を用いた研究が増えているが、対象者本人による自己記入式のため意識障害や失語、認知障害などの症状がある場合は評価が不可能である。一方、HRQL尺度の中でも健康効用値を測定することのできる尺度としてEQ-5DやHealth Utilities Index Mark 3 (HUI3)、SF-6D等が世界中で汎用されているが、現在、日本語版として利用可能な尺度はEQ-5DとHUI3に限られている。この中でも、HUI3は療法士や家族などが代理人として評価が可能である代理人回答方式があり、対象者本人が回答することが困難な場合でも測定することが可能である。そこで、我々は脳疾患患者と大腿骨近位部骨折患者においてHUI3を用いたHRQL評価を行い、あわせてADLとの関係について調査を行ったので報告する。【方法】対象疾患は脳疾患（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍）、大腿骨近位部骨折（頸部骨折、転子部骨折）とし、入院中にリハを受けた患者を対象とした。調査方法は、健康効用値測定には日本語版HUI3を用い、担当療法士による代理人回答で記入した。また、ADL評価にはFIMを用いた。評価は初期評価（リハ開始時）と再評価（転院・退院時）を行った。健康効用値は1を完全な健康、0を死とする間隔尺度である。また、HUI3の場合にはマイナス値も設定されており、その最低値は-0.36である。HUI3は視覚、聴覚、発話、移動、手先の使用、感情、認知、疼痛という8つの寄与領域を5または6段階で評価を行い、これにより、972,000通りの健康状態を記載することができる。HUI3はGlobal scoreとともに、寄与領域ごとのsingle scoreも同時に求めることが可能である。統計的手法についてはノンパラメトリック手法を用い、統計解析についてはSPSS ver.14.0を使用し、有意水準は5%以下とした。本研究の実施に当たっては、新潟医療福祉大学倫理委員会の審査と承認を得ており、評価の前に紙面上で本人または家族に説明を行い、同意を得た。【結果】対象者は34名（平均年齢72.9±13.6歳、男性20名、女性14名）であり、内訳は脳疾患が21名、大腿骨近位部骨折が13名であった。初期評価から再評価までの期間はそれぞれ16.2日、18.8日であった。健康効用値の変化は、脳疾患ではGlobal scoreが0.19から0.41となり0.22の増分、single scoreは移動が0.20、手先の使用が0.08、感情が0.15、認知が0.10、疼痛が0.08の増分であり有意な改善を認め、大腿骨近位部骨折ではGlobal scoreが-0.02から0.18となり0.20の増分、single scoreは移動が0.24、感情が0.15、疼痛が0.33の増分であり有意な改善を認めた。FIM運動項目に関しては、脳疾患では54.6から69.4へと17.3点の増分、大腿骨近位部骨折では38.4から54.5へと16.1点の増分、FIM認知項目については、脳疾患では25.1から27.6へと2.5点の増分、大腿骨近位部骨折では23.0から24.5へと1.5点の増分であり両項目の点数が有意に向上した。HUI3とFIMとの関係については、脳疾患のHUI3の移動とFIM運動項目、HUI3の認知とFIM認知項目で強い相関を認めた ( $r=0.77-0.92$ ,  $p<0.001$ )。また、大腿骨近位部骨折のHUI3の移動とFIM運動項目、HUI3の認知に関してはFIM運動・認知の両項目で強い相関を認めた ( $r=0.84-0.97$ ,  $p<0.001$ )。【考察】本研究により、リハ前後ではADLと同様にHRQLに関しても向上していることが分かった。また、HUI3のsingle scoreとFIMとの相関が強いことより、HUI3はFIMで表記されるような運動・認知項目に関連したHRQLを的確に表すことができると考えられ、リハのアウトカム指標として有用であることが示唆された。